



森と海の自然科「川と街道を訪ねて-No3」

安威川権内水路とキリシタン遺物史料館を訪ねて(記録)

1. 日時: 平成29年6月15日(木)
2. 集合場所、時間: 阪急茨木市駅、9時30分
3. 参加者: 16名 (浅野、大石、金戸、児玉、後藤、坂根、中西、日景、藤井、秦、前野、万井、奎三、倭、山本裕、上條)

今回は安威川上流部(支流の下音羽川)と権内水路(車作村の深山水路)の観察、合わせてキリシタン遺物史料館を見学した。



千提寺口バス停前の案内板に従ってギッソ道(ギッソ:ポルトガル語で隠れるの意に由来するとの説)を進む。道路に出て、古い民家のたたずむ一角にあるキリシタン遺物史料館で遺物発見の発端に関わる映像を見る。

高山右近が戦国大名として活躍した時代から大正時代まで、ここでキリシタンが密かに信仰を続けていたとは本当に驚きである。



バス停前の案内板、ここから歩き始める



キリシタン遺物史料館



天満宮階段下で記念撮影

昼食は天満宮で取り、急な石段を降りたところで記念撮影。しばらくハイキングコースを植物観察しながら歩く。竹林が多くいまだにタケノコが出ている。ササユリ、ウノハナなどが目を楽しませてくれる。田を横切るあぜ道を過ぎるとすぐに下音羽川に出会う。清流には小魚が泳ぎ、ツバメが水浴びをしている様子がいかにものどかである。



ササユリ



ウノハナ



下音羽川の橋

下音羽川に沿って竜王山の山すそを抜けると権内水路の北広場に出会う。権内水路は庄屋だった畑中権内(1753-1816年)が独力で掘ったと伝えられる。この車作一帯は安威川を眼下に望む高台に田畑があり水の便が悪いため米作りが難しく、村人は苦しんでいた。権内は下流の村などから反対にあいながらも2kmに及ぶ灌漑用水路を完成させた。この急斜面の岩肌に水路を作ることは当時の人たちにとって難行であることは想像に難くない。水路沿いのハイキングコースを歩き終わる頃、水路から水を分岐した田畑が佇んでいた。



取水口のある突堤



シュレーゲルアオガエル?



権内水路を歩く



畑中権内碑

皇大神宮境内の「畑中権内碑」に立ち寄って車作バス停へ。
17:00 茨木市駅で解散。途中第2名神の大規模工事が印象的であった。

写真: 坂根 記録: 上條